

恨瀬戸恋 うらみのせとこひ

神楽川初編 かぐらがわ

芳川春涛園
岡本起泉綴
歌川國松画



島鮮堂寿梓



A 543
1

恨漸々

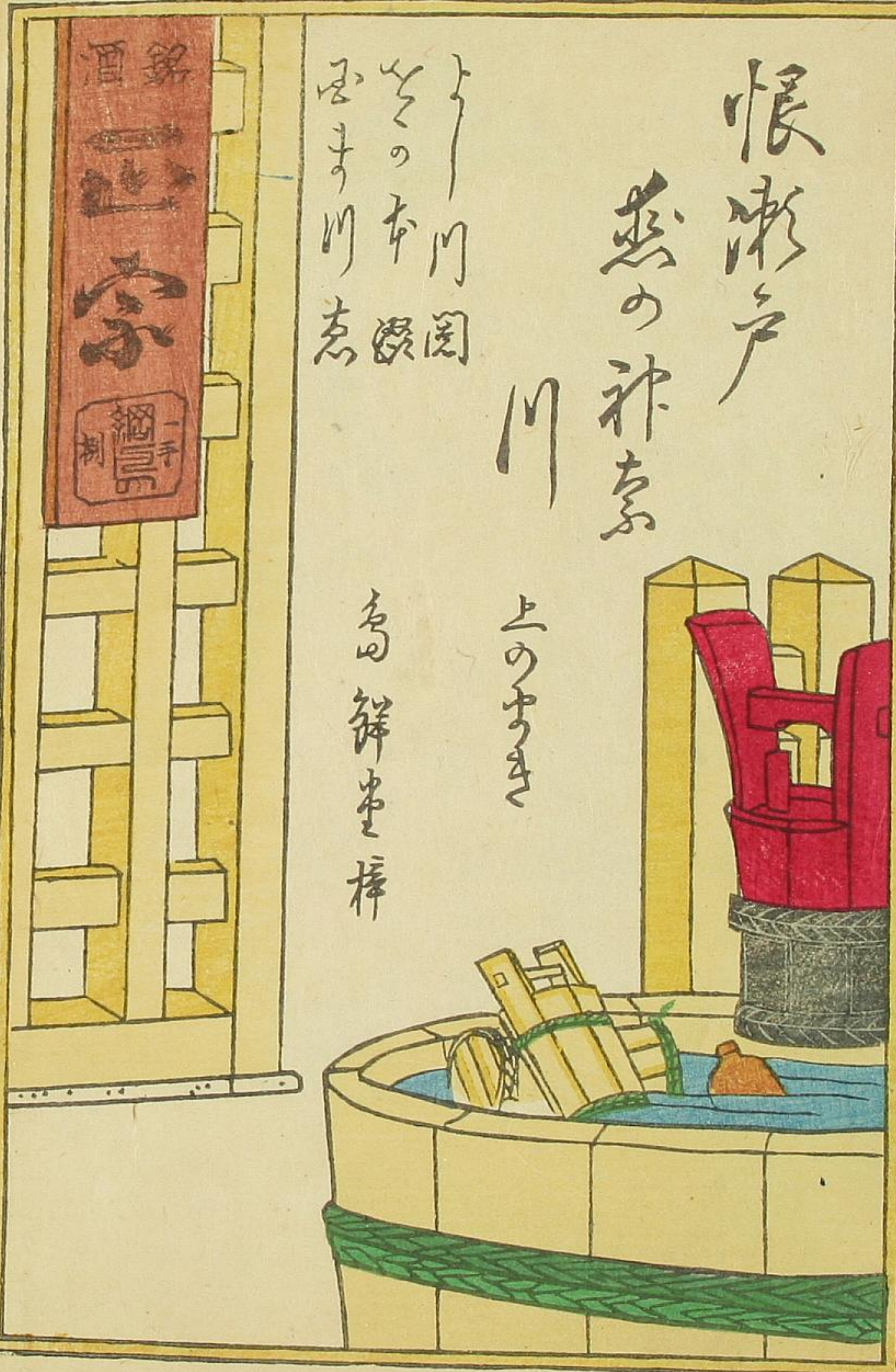
燕の祢奈

川

上のやま

その本
必す川志

高解を梓



48-8420



古俗嘗て曰く自惚と瘡氣のちきりのあしと實然り而して呂
后が妄情の刃下に死す或は四條のわたり小朽果し何ぞおれ是
根をちきりしん抑々韓信が智清少納言が賢あるまじき斯乃
如く況んや愚夫情婦おれでや今我爰にのりたる友井由太郎
の如き其愚夫中最も愚夫といふべくして又自惚の増長せし
斯る妄情の騒動も及びしならん何れぞ深く慎むべき
此一事といふ矢張老婆心此冊子とて我態を直さる一具とも
購覽の編者の幸ひ彼自惚より甚だしとてあべ

明治十五年二月下旬

岡本貴泉述



半左門女房

おては

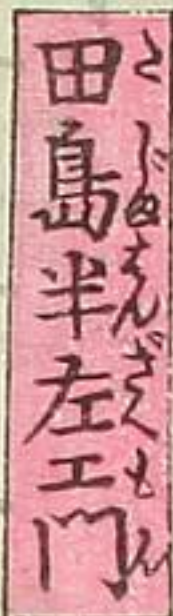
友井由太郎



下婢お幸

岩崎の娘
於よ





ふーあゝとあつて
ふーあゝとあつて

全
糸川 詩音市町を温る糸湯ふ
掃る帯ぶきくと湯城い

果てつて
そ
深き下
ぢやない
女を信じて
ゆえんと

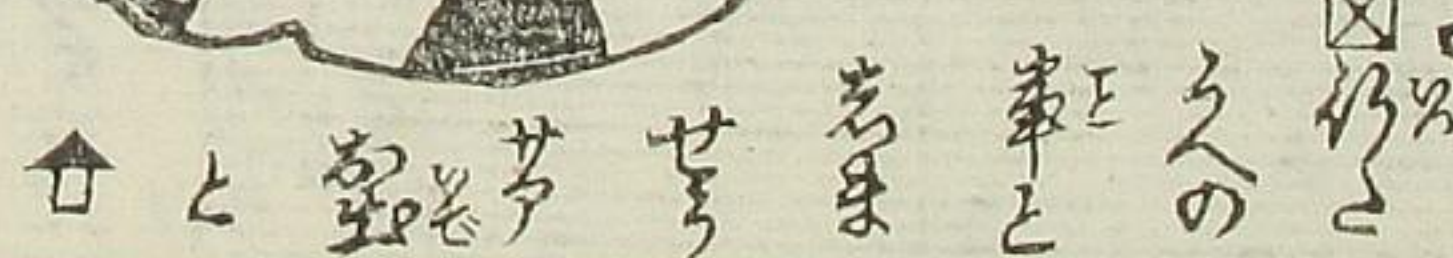
廿二
 餘の二八


 の娘
 さんどよ
 道西へ

伴判官を同所の
 岩崎と云ふ所に
 次へ

溫泉

イ
ヤ
サ
ズ
レ
ホ
ウ
カ
キ
ノ
ミ
セ
ウ
ウ
マ
ア
無
心



25



ふき
おき
おき
おき



え切る

振

の

湯り

とあてい

由

花

の

中

新

の

宿

の

中

の

中

の

中

の

中

の

中

の

中

の



ハ

ハ

ハ

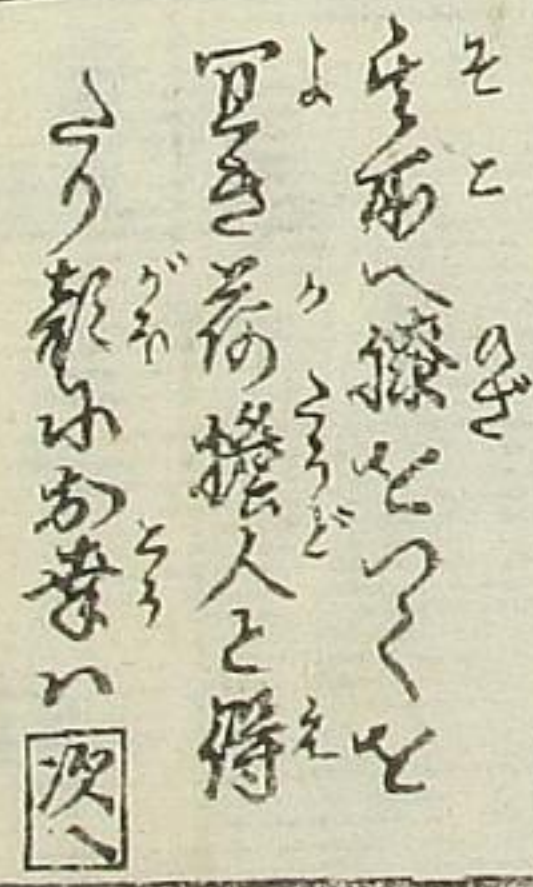
ハ

ハ

ハ

ハ

名をえたるを男いあたる席はてりくぐ
 扱双方の扱が大きく破きあ外の湯
 浴の客人の何事やらんと身まで
 服引袖引け方など名をい
 容子ふ
 中江舟ハツと
 へてと今ふよりかへされぬ
 舟の外可少し横せで名をえたる
 招く門は返入てあふせあるより
 債（あまの）束のそ男い同人
 方へ中人の若う何ついで



つぎ かねてん例の通りおれとてとて
 自らの一足先は格うの如くは格の者あり
 編者へおれは格うの如くは格の者あり
 小松は格うの如くは格の者あり
 りおれは格うの如くは格の者あり

園に格うの如くは格の者あり
 小松は格うの如くは格の者あり
 りおれは格うの如くは格の者あり
 小松は格うの如くは格の者あり
 りおれは格うの如くは格の者あり



志村 五郎

さへ格うの如くは格の者あり
 小松は格うの如くは格の者あり
 りおれは格うの如くは格の者あり
 小松は格うの如くは格の者あり
 りおれは格うの如くは格の者あり



志村 五郎

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

月日の

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう

あまのう



島	鮮	堂	書	帖	折	本	録
善惡教訓圖解	大日本神社佛閣全	東海道五十三次全	徳川年代記事全	古今名婦傳全	花鏡東京名所全	龜地本錦繪問屋	島鮮堂 網島龜吉
上 藤	周 重	房 種	周 延	房 種	廣 重		
善惡雅訓全	俳優忠臣藏全	花鳥かぶき全	書經之國全	命養生善惡鏡全	開化東京名所全		



若

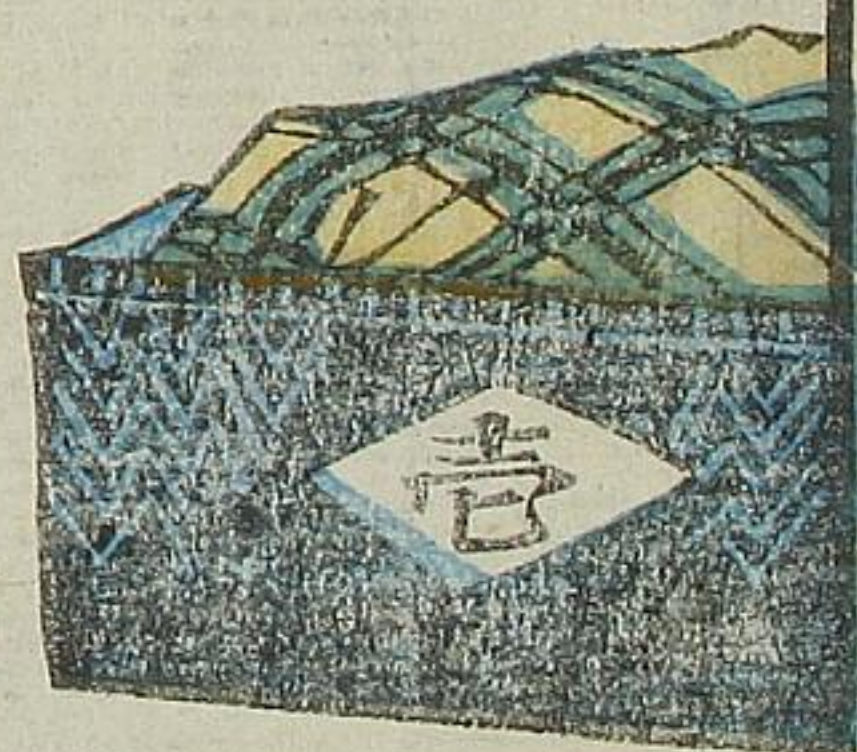
漸戶志

补苴

初元

中乃

本紀



○ 室へ田舎の酒を肴席人等を入居せしめ
 花へ移しむ小供も亦寄るゝたり ちち一園番
 主人の侍妻下女のアラをそとへる 頼侯の
 末へ婦女の取次方お移りしおとく幸ふとの
 一人が俄ち小名い出し

○ 本店のおうさんい何や彼遣て
此炭へ移けらるを所とのうと云や
お炭いまご知おへうまお近間者にも
移るらう此間ののり因常示を

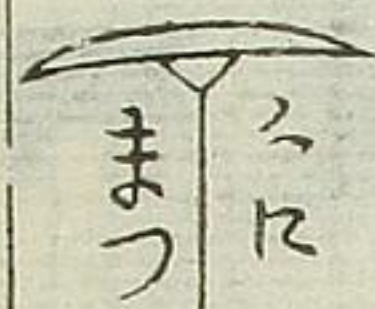

 廿
 日
 同
 常
 不
 定
 修
 事
 七
 日
 七
 日







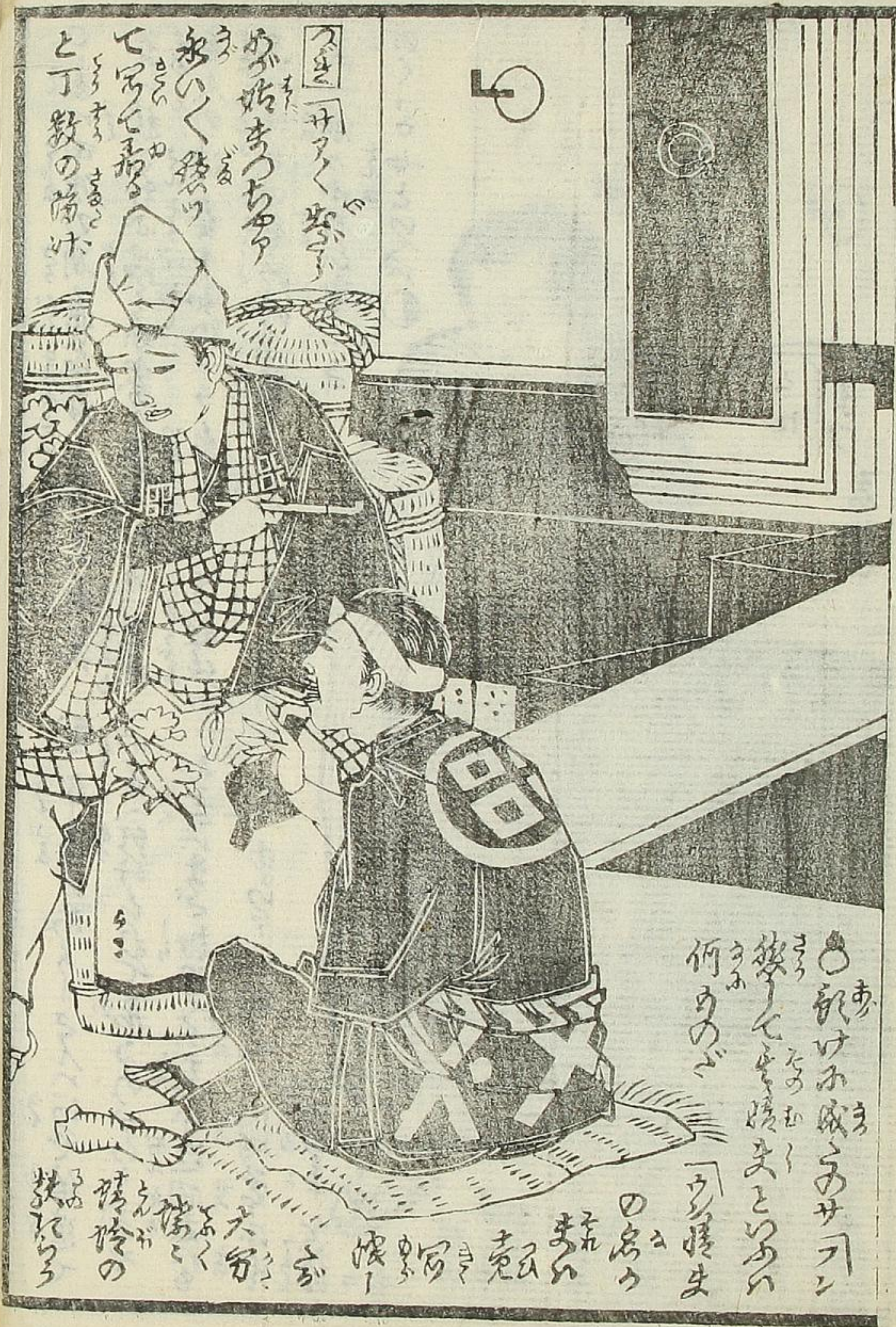


五
う



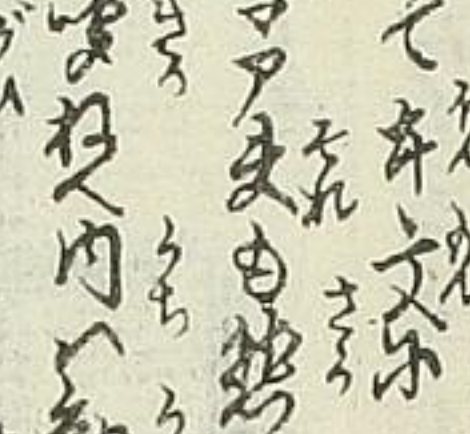
かんく空田曉ちとんく
 へきくく官の連いね
 ずくずく我へき
 ぐくぐくき
 ぐくぐくき

[illegible]

〇歌けぬ成ふサリあ
 幾さうとてなむむ暖まといふ
 何さふものぞ
 〇歌暖ま

のふり
 まい
 克
 家
 大分
 橋
 橋
 大分
 大分

夜更加減中にて本々
 抵つていざマア自由然る
 とも同く周知をせむ内へ新けね
 「やしくよふ年甲斐もつく病小
 腰と揺さるるゆるぐ候へ格
 で吹ひ又うるさると隣一席の
 己が迷惑する様にてはせそある
 ナニあてもなくほサ先ありえん情まか
 附とめいねし下様の古米どアある
 使へば附て惚るもの女との矢張
 風物なれうとといふう「吾方らね
 るう情男が出来たあゝアアく生とろ
 出へ一併何奴り忌々しいるア「マサ全



小鼻息と荒くしきと踏むそ
 の多と
 人あふく情あがゆ筋の悪い
 う己
 う
 知
 う
 ざい
 是漸と
 切るやアアアアア
 ふ付て内へを候重と
 ふつ
 糸糸合とといふ起う
 ざコレ
 次へ



凶悪なるまがねをさす

旧ともり窓の痛ふりそよ

風ふたれて藤く外西の

名進の夢羽ふのちと

熟るまのむをば優一

まの妹めとあふぬい

白紙小由を帯の

いふあひの婿り

行くそまあひ

引くおやの又

候て已はが都

屋とまめ一

二階の一間小

八月の暮
ひきあ十八歳の

一月と一もあつた

出た宝袋あつた

極の極も

因縁りら

小生身小

あつた

出てい我慢が

出来うひて

寧ろ打附

おのれんと

あつた

てもうた

のころあ

先んか

あつた



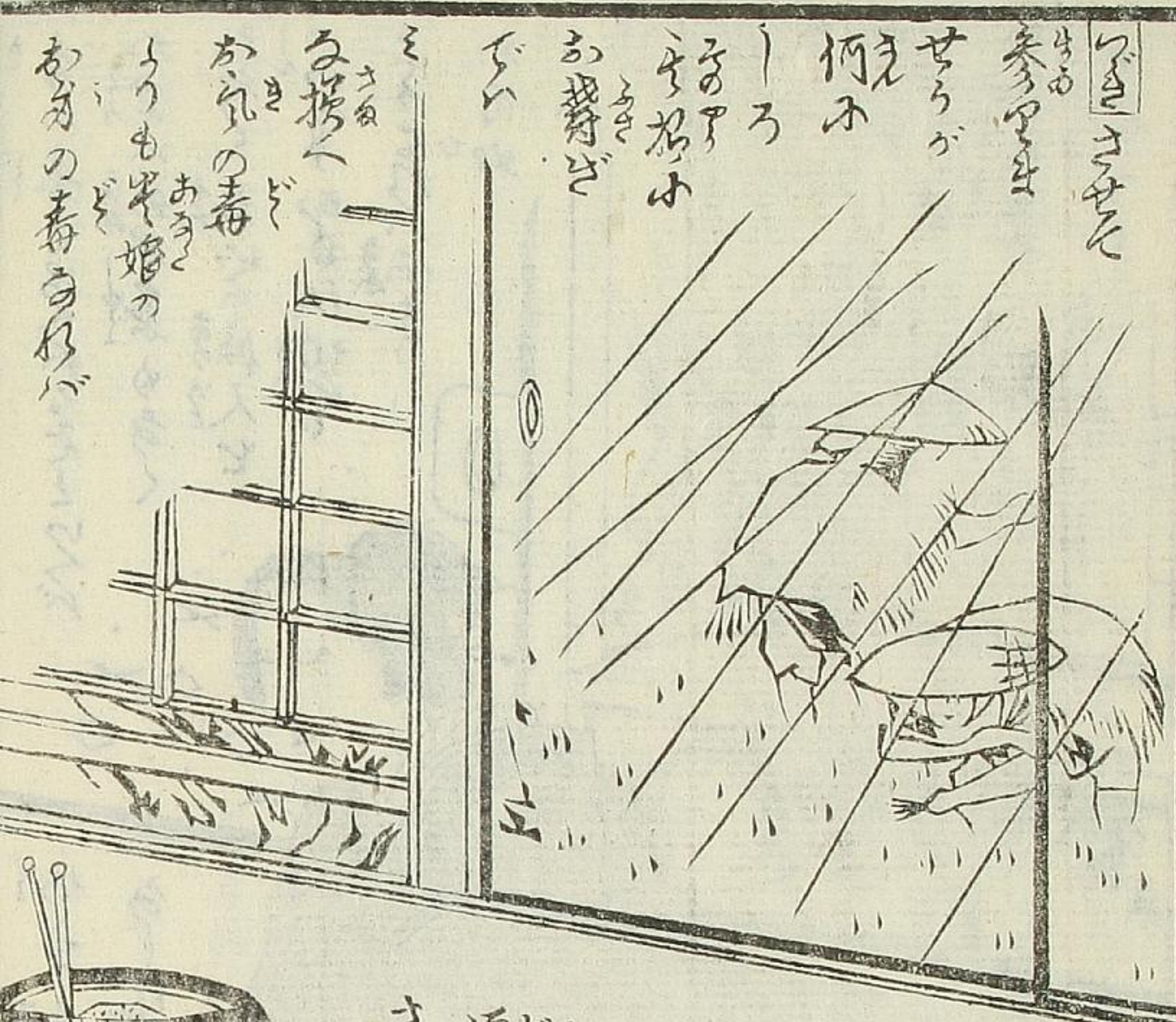
外あぞのそいでもんぬの

あらばあ幸あさへ候々佑もせぬ

まふお替ぎあふも波事と

あつた側を慰さめてマテ

あつたふよくと油くか素



一方ありぬれ苦勞と
 うけあへぬるべし今又お幸々
 取つたお敷うすやうな情けしい
 事をなすまで待つてもあひ
 きられぬ方の因果どうせも
 天祐ひと今あつては約束
 通う那人と一ふあつては約束
 さげ味當りおけるも生澄と
 通ううすうす内お敷の
 怒りも解るやうな
 うと

テト仲の間へも
 今一つてさうな作
 てもお敷あそびせ
 ちかお敷さうさ
 まりあうと云は
 とううとてさうな
 兄送るてコレお敷
 かししてお敷あそび
 陽しとてさうな
 同い族合もあそび
 何年遠慮してあそ
 びとてさうな

An illustration of a woman in a kimono sitting and looking down. She has a long pipe in her mouth. There are some boxes and a bowl on the floor next to her.

守つてやる様ふとら
 族とあそびあそび
 所父さんやお母さん
 うと

① 心さくまうてふ
 望むさくまうてふ
 事ふさくまうてふ

とあるものの
 ぞととちひつ
 ちひつとちひつ
 ちひつとちひつ

て邦と名の

附く
例

の井戸を

ちやうど　さういふ生と
 と書くとよくあて又も
 さめく　ききぬ　ひと
 湯と法居る方が入のや
 こ　こゝろづ　かたろ
 事んとお付き阿呆さん
 かろ　こま
 阿呆さん　是まづの△

終るある世の怪談
 中にも遇う死に花実の
 愛いせぬ生て困苦と破て
 とて今とて和女の
 次

[illegible][illegible]



50

善惡教訓圖解

下	上
膝	芳

苦惡推袁訓全

鮮

大日本神社佛閣全

重周
俳優忠臣藏全

堂

東海道五十三次全

花鳥加美全

帖

德川年代記事全

書經之圖全

新

古今名婦傳全

命養生善惡鏡全

卷之六 東京名所全

重刊
化東京名所全

卷之四

龜地本錦繪問屋島鮮堂綱島龜吉

歌川國杏画
島鮮堂壽梓

下之卷



園
松
為
の
く

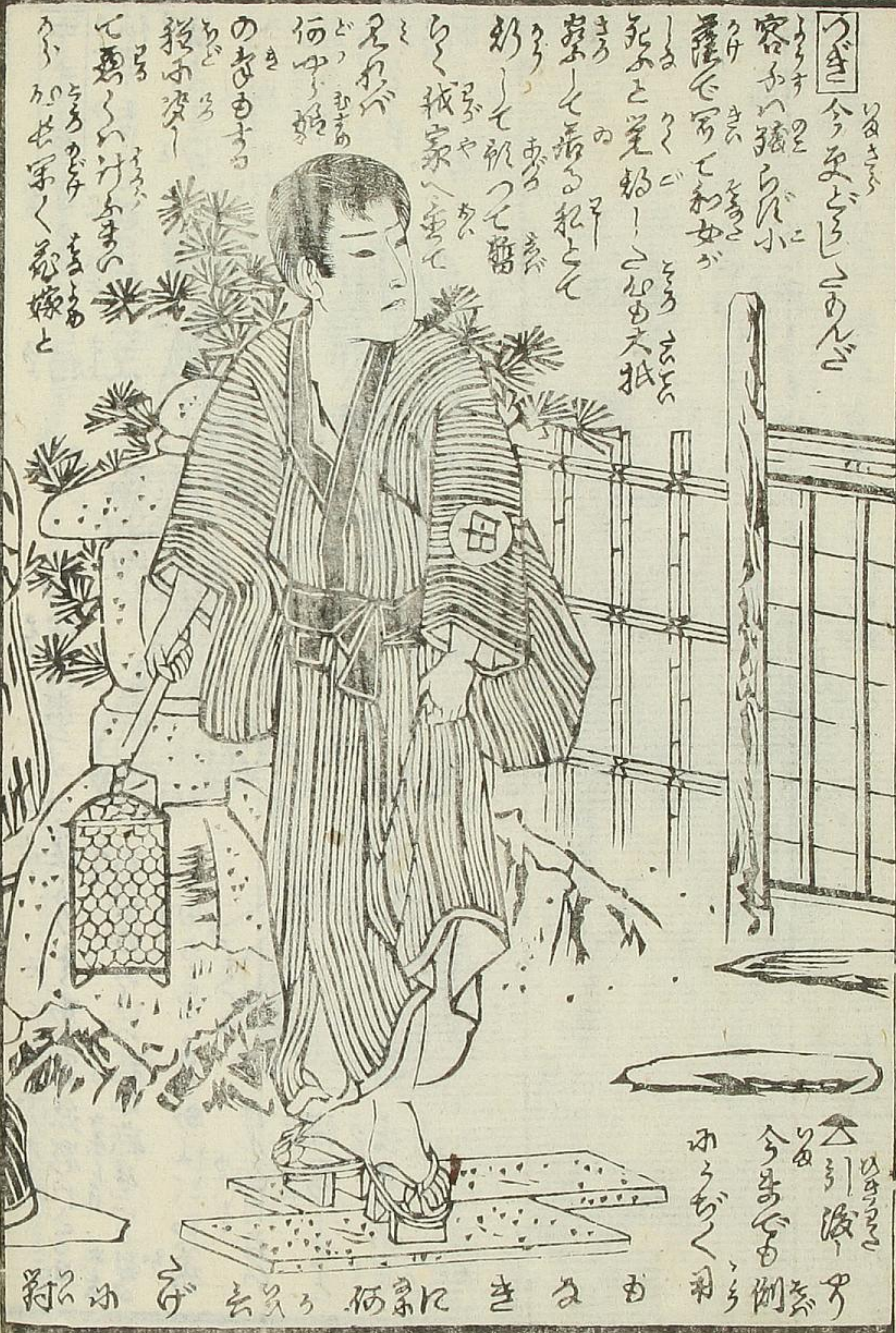


上卷



決人

今更とほいこのんご
 容かへ顔らば小
 薩を寄てわが
 死ふと覚ぬしこの大抵
 家とて知る私とて
 好しそ秋つて糖
 りく我家へ来て
 見れば
 何や
 のおもする
 後み
 てあふけあまの
 りく世家く花嫁と



今更とほいこのんご
 容かへ顔らば小
 薩を寄てわが
 死ふと覚ぬしこの大抵
 家とて知る私とて
 好しそ秋つて糖
 りく我家へ来て
 見れば
 何や
 のおもする
 後み
 てあふけあまの
 りく世家く花嫁と

花嫁とて知る私とて
 好しそ秋つて糖
 りく我家へ来て
 見れば
 何や
 のおもする
 後み
 てあふけあまの
 りく世家く花嫁と



今更とほいこのんご
 容かへ顔らば小
 薩を寄てわが
 死ふと覚ぬしこの大抵
 家とて知る私とて
 好しそ秋つて糖
 りく我家へ来て
 見れば
 何や
 のおもする
 後み
 てあふけあまの
 りく世家く花嫁と

A black and white illustration of a man and a woman in traditional Japanese clothing. The woman is seated on the left, holding a book or scroll. The man is kneeling on the right, looking down at a small object in his hands. They are in a room with a window showing a view of a garden.

さりとて如く由き尋へおはせし投刺の所
 流さ我身とて公に追する姫子みちと
 かゝるゝあそひ守まへり松月窓の圍に
 破表し由きなあが今暫く来ずみちと
 破表し由きなあが今暫く来ずみちと

下り参り
 かまへおる子
 後方とまると
 子より新なる由を
 身なり 子前尾

けりとも叶ふか上は彼女もまこととて腹定むる
 想といを辨ぬ意知れ忘じしは才なつと
 捨ちまじれおもて惜くありいささ
 儼然も燃しつゝ尚も
 おどぐ伯へど平後へ辱
 傍の者の看張廢しく中々に
 例へあるふふ燃ひざりしが遅く
 日柄の短つにけり意るといふくあるとふい
 宵ねど自づと看張も緩くあふゝも仲の者

[illegible]

つぎ

若旦那をどうする

誰かある工場のあつと神を

素直にねて小様をちあはれと

と悲しく不意と素人と

出てゆき驚く

あてを失くす

経もく

遂に

解るぬ

一人の男が裏にうろつき

あつとねてふいふふいふ

若旦那はねて今日の家へ

目見ぬあつとねてふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

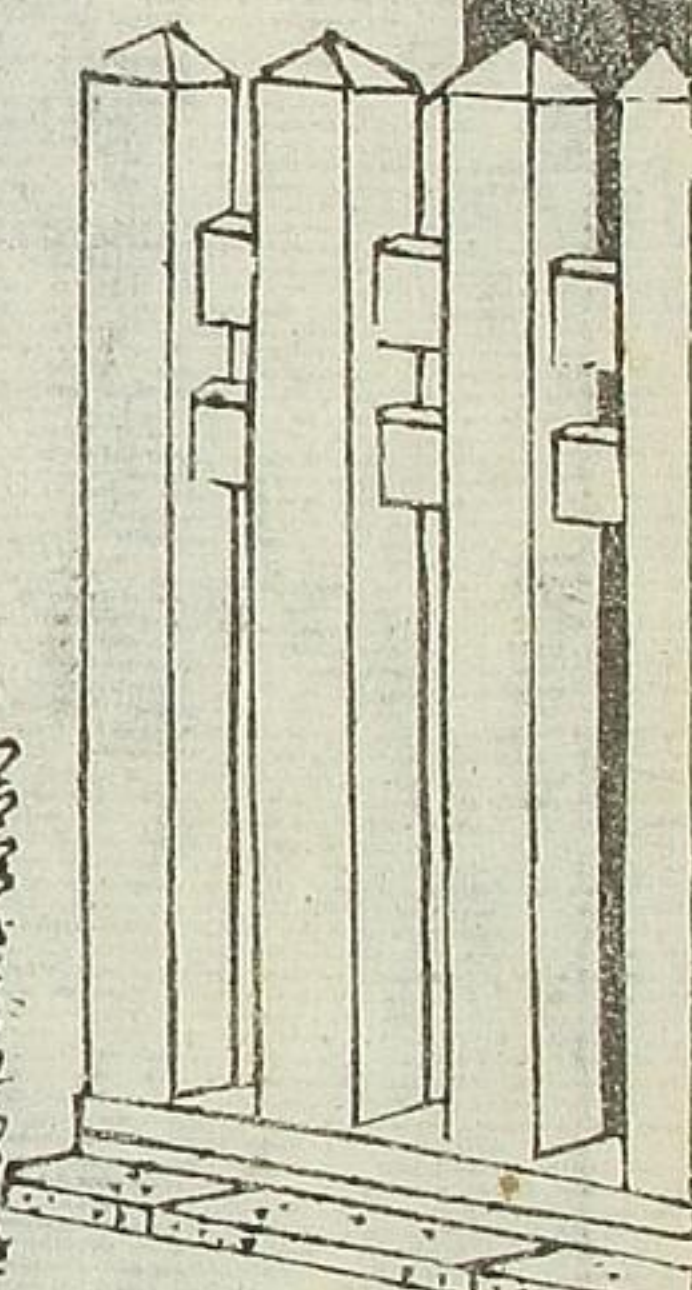
あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ



●おかしき

若旦那はねて

素直にねて

と悲しく

出てゆき

あてを失くす

経もく

遂に

解るぬ

一人の男が裏にうろつき

あつとねてふいふふいふ

若旦那はねて今日の家へ

目見ぬあつとねてふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

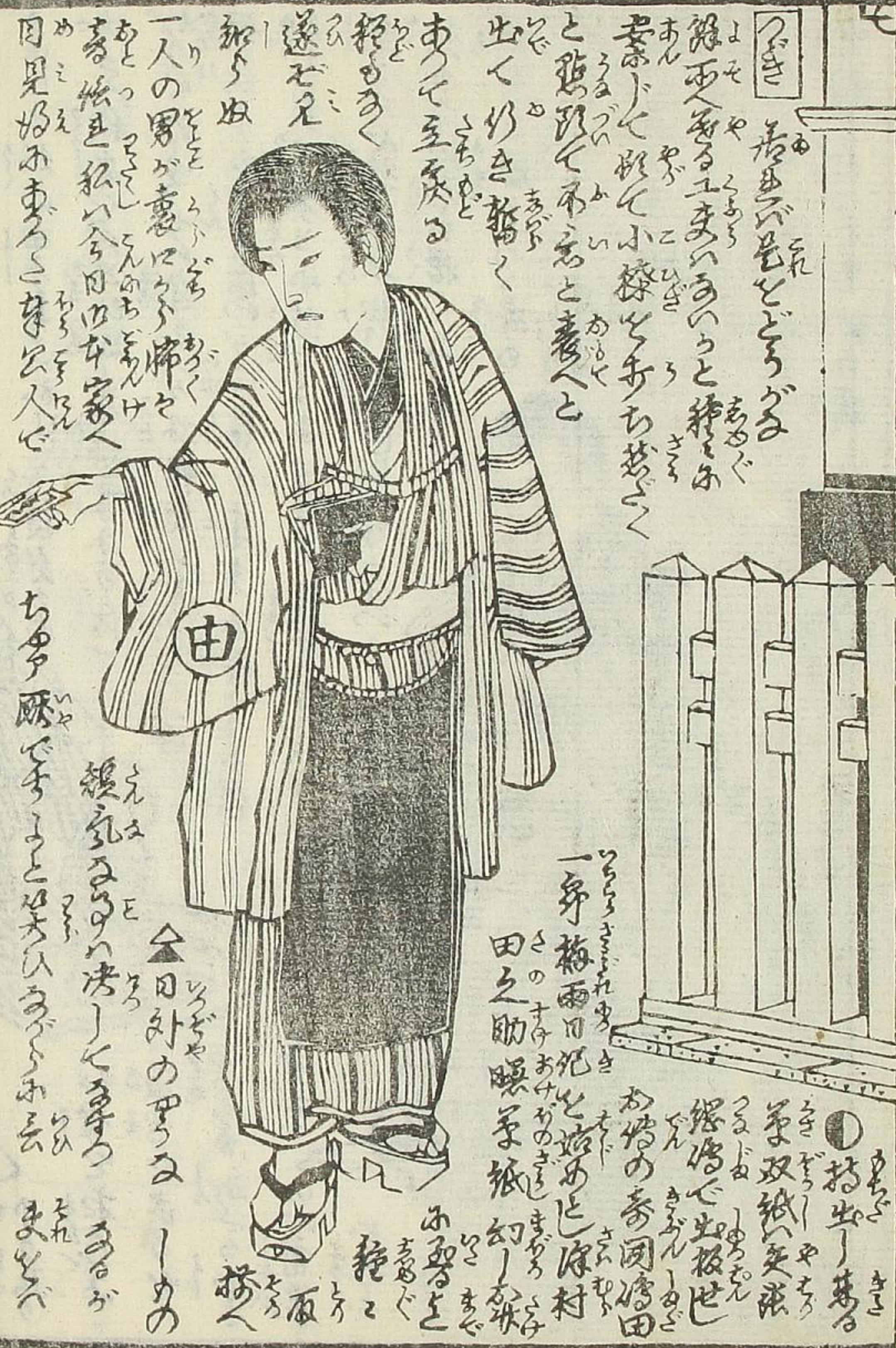
あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ



△日外のもう

緩急をわける

ちやんぽん

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

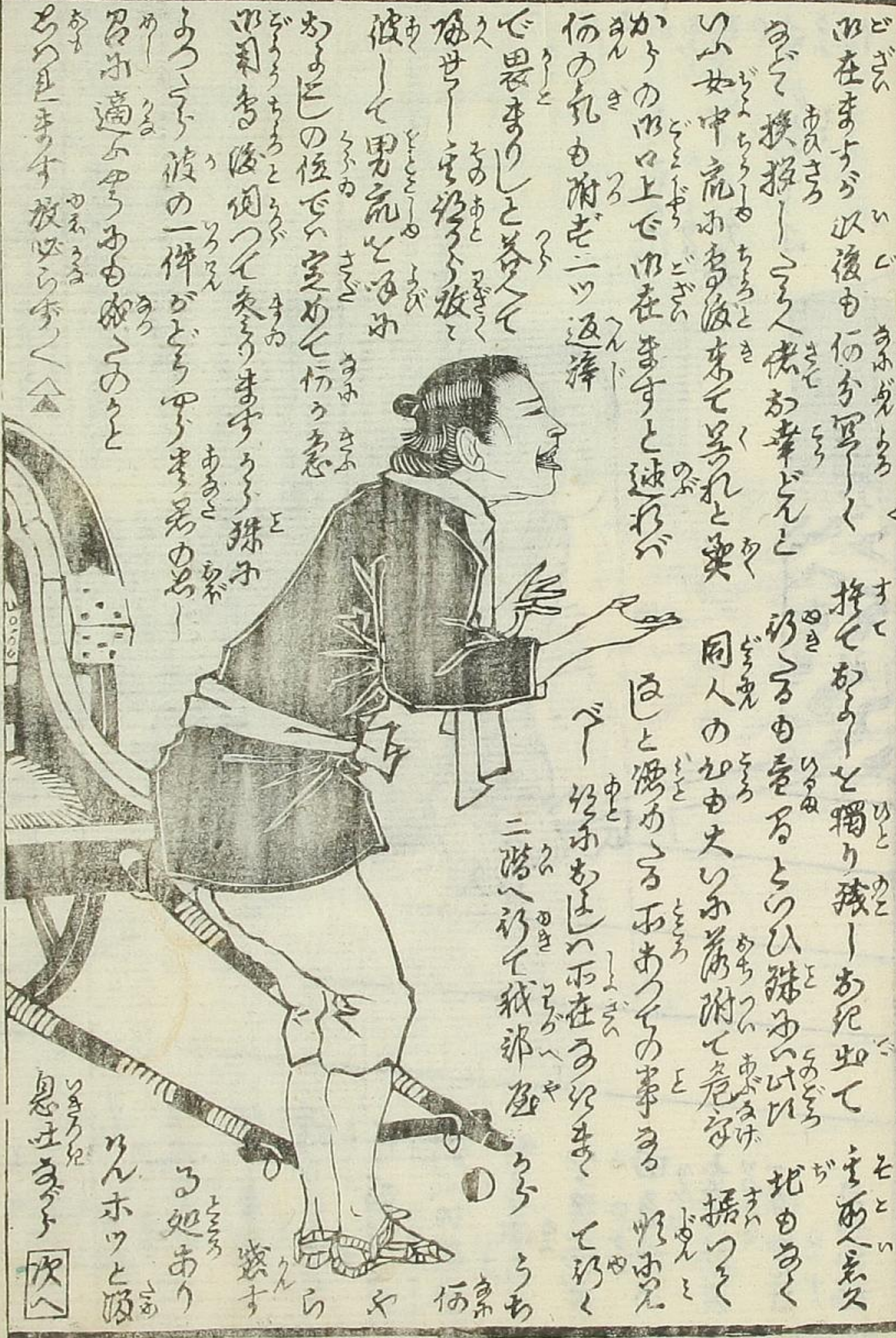
あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

息止まる



あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

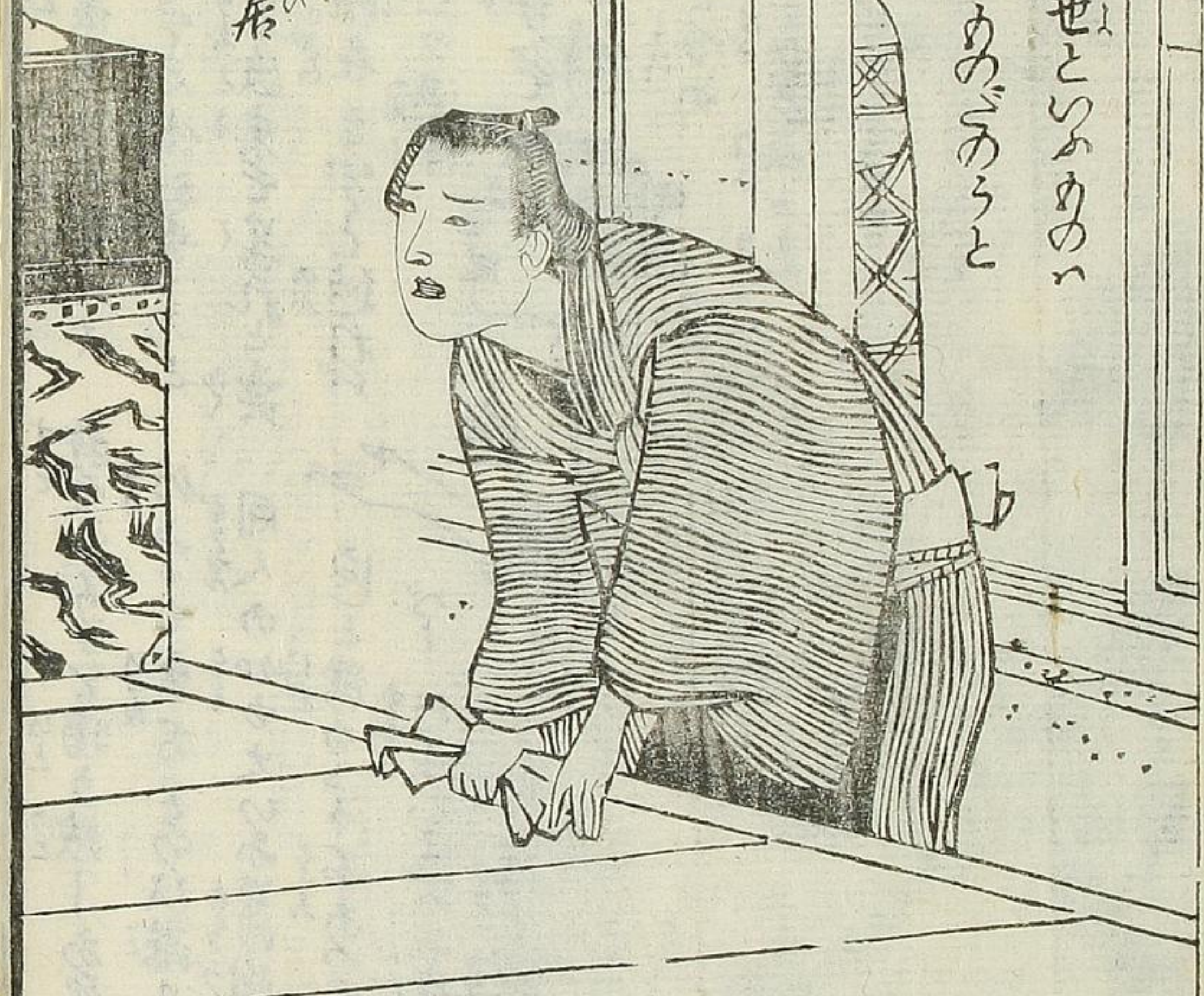
あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

あつとねてふいふふいふ

つぎ 雲の浮世と云ふのい
はれぬふらふのいふと
いつ時

雲の浮世と云ふのい
はれぬふらふのいふと
いつ時



雲の浮世と云ふのい
はれぬふらふのいふと
いつ時

雲の浮世と云ふのい
はれぬふらふのいふと
いつ時



雲の浮世と云ふのい
はれぬふらふのいふと
いつ時

つき 別人ありぬ

下女あり

振りつゝ

さう不貞い

おまに今日

のやうな様

のまゝにい

有ません

是の何様

しと様

せうも様も

アアアア

先別波



大層なや

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

前と此所の画様ハ
於幸があらう物語
のさるに見あやう

それと

有難く

の涙

えん

自

ん

ん

途中

とも

急い

人か

悪

近

一

の

も

自

う

う



云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

云々

の
決


 早 考 公 有

まゐりとあど近國お
け外まき得お那ひまよお

然さ^んど^うの^とそ^のみ^も激^{げき}し^し

て仕舞へる事さふ文

海りて大冢なりとて寂然と

店の方ふ函^{はな}ぎ^をじ^の書^かけ^をの

老の宮のものと成るうー

因ふいと起上る由あり

へんそくするのやどおほし

判然明らなほど令々厭である

王
と獨りて務ふ所定ぬ

本堂達する時束のぬき自



△ ちよふふい紙燭も
把ぎ搦りゆく途へ
別々も森の雲迷ひ易

多上兩兄

外ハめメと

此乃西戎仇

甘
心
受
一
辱

の
お
は
じ
ま
り

室へ響くと

要

のちを
暖の次

編小委一

御明治十五年
浅草瓦町十六番地
出板人 綱島龜吉

島年 善惡教訓圖解 上下 善惡推志訓 全

鮮重
大日本神社佛閣全
重周
俳優忠臣藏全

東海道五十三次全
種鳥

德川年代記事全
延享
書
之
國
全

折種及
古今名婦傳全
種及
命養生善惡鏡全

花競東京名所全
重開化東京名所全

龜地本錦繪問屋島鮮堂縮島龜士口

